

平成 25 年 3 月 6 日

A WINDOW ON FUKUSHIMA: a public radio broadcasting

概要：

ドミニク・バレイ（ニーム大学講師）と永幡幸司（福島大学准教授）が、今般の原発事故に衝撃を受けたフランスと日本を中心とする音の表現者・研究者が制作した原発事故と関連する音の作品を集め、A WINDOW ON FUKUSHIMA というラジオ番組を作成した。震災から2年の3月11日にあわせ、この番組の公開試聴会を、フランス(Maison Laurentine)と日本(福島キッチンガーデン)において開催する。

A WINDOW ON FUKUSHIMA

2012年5月、日本に稼働中の原子力発電所は一基もなかった。30%以上のエネルギーを原子力に頼り、3月11日以前は大変積極的な原子力政策を展開してきたこの国において、全ての発電所が運転停止となった。

この新たな状況（国民投票で決まった訳でも、政治決断による訳でもなかった）は、エネルギー政策のラジカルな変革と公共政策の遂行におけるパラダイム転換を求めるものの大きな希望を集めている。

窓は開かれ、《Meanwhile in Fukushima …》というラジオ番組は、この希望を捉え、表現する企てとして誕生した。

今日、この窓はほとんど閉じられた。

しかし、多くの人たちがこの5月の希望を守るための活動を続けており、彼らの作り出す音は、私たちが注意を払い、耳を傾ければ、聴取可能なものであり続ける。

福島への長期に渡る国際的な関心を促進することを目指したこのラジオ番組は、Maison Laurentine と福島キッチンガーデンで同時に、そのような聴取へと誘う。

企画・制作：Dominique Balaÿ, 永幡幸司
後援：福島大学行政政策学類
美術館とまちづくり研究会

日時：2013年3月11日 6:00pm~9:00pm

会場：Maison Laurentine (France)
福島キッチンガーデン
<入場無料>

問合せ：fsp@knight2.sss.fukushima-u.ac.jp

All infos：http://fukushima-open-sounds.net



(お問い合わせ先)

共生システム理工学類

永幡研究室

電話：024-548-5154